

令和3年度 埼玉県・オハイオ州グローバルスピーカープログラム後期（オンライン） 最終レポート

後期メンバー 奥田寛子

今回は3本目となる活動レポートについて、活動報告として成果発表会の準備と当日の様子を記載します。その後、活動の総括としてペアとの交流、およびフィンドレー大学の川村先生、Mott先生との交流で得た体験と気づきについて報告します。

メンバー唯一の社会人・子育てをしている者の観点で記載するので、内容に偏りがあること、中間レポートの内容と一部重複しますが、ご容赦願います。

【報告内容】

1. 活動報告：成果発表会について
2. フィンドレー大学の川村先生、Mott先生との交流
3. 終わりに

1. 成果発表会

4月下旬で講義は終了し、6月4日の成果発表会に向けての準備を進めました。成果発表はメンバー5人で1つの発表資料を作成、発表するもので、シンポジウムの発表とは異なる難しさがありました。とはいえ、シンポジウムの経験が大いに役立ちました。メンバーでタイムリーに共有が出来るように、発表資料（PPT）とその元ネタ資料をグーグルドキュメントの形式で共有しました。したがって、メンバー全員が常に最新の資料にアクセス出来、また個々の進捗を確認することが出来ました。

一方で難しいと感じたことは、前述のとおり、5人で1つの資料を作成することです。中学生・大学生・社会人が混在する私たちは、オンラインで集まることができるのは週に1回程度です。その条件で資料作成を進めるためにも、発表資料の材料となるアイデアや具体的な事例について、メンバー全員がリストに書き出しました。具体的には、質問リストを作成し、メンバー全員がその答えを記載して共有しました。そして、発表内容をまとめる際は、そのリストを参照し、他のメンバーが経験したエピソードや意見も取り込んで作ることにしました。その甲斐があり、発表資料は一貫した構成を持たせ、具体的な事例はメンバー全員の体験や意見を反映した内容にまとめることが出来ました。リハーサルは1回行い、各自の修正点を確認し、当日に臨みました。

当日は約30人の方に視聴頂きました。オンラインであるために相手の反応が分かりづらいものの、相手に聞き取りやすいように間を開けながら、丁寧に話すことを心がけました。QAについては、発表内容を踏まえた内容もあり、手ごたえを感じ、安心しました。

この経験を通じ、頻繁にコミュニケーションをとることが出来ない中でも、チームで1つの物事を進めるノウハウを得ることが出来ました。また、普段一回り以上若い世代と共に何かに取り組むこともないため、貴重な経験でした。ともすると、相手の状況が見えないために不安になることもありましたが、LINEを中心に率先して自らの状況を伝えることで、他のメンバーの状況を伺い、全体状況を把握することも覚えました。一方でメンバーを信頼し、過度に発表内容に立ち入らないようにも心がけました。そうしたことで、より私たちの個性が生きた、オリジナリティのある発表資料になったと考えております。

2. ファインドレー大学の川村先生、Mott 先生との交流

先生方との印象的なエピソードをご報告したうえで、本プログラムで得た気づきを述べます。

●Mott 先生の励まし

先生のお人柄や講義の様子も中間レポートにて部分的に報告済みですが、本プログラムの重要なポイントであると考え、改めて報告します。

改めて、本講義の目的はグローバルな視点で自分の考えを持ち、発信できる人財育成です。そのために必要なのは「自信を持つこと」、「失敗を恐れないこと」であり、先生方は、それらを、全ての会話での受け答え、講義中の説明や振る舞いで私たちに伝えてくれました。英語で発表する際の実用的なスキルは他でも修得可能ですが、こうしたマインド醸成は本プログラムならではの得難い経験でした。

例えば、Mott 先生が、講義のスタイルを「講義は講師が一方向的に話すものではなく、講師と生徒が双方向に、理想は生徒が主体的に行っていくものだ。」と説明し、実践しました。それは確かにアメリカの大学の一般的な講義スタイルであり、上記のマインド醸成とは直接関係がないかもしれません。しかし、こうしたスタイルで講義を受講することで、私は次第に主体的に考え、発信する力を養ったと考えます。なぜならば、発信する機会が増えれば失敗も増えます。その際、先生は、私たちが発言をためらったり、発言しても上手く伝えられないと気づく度に「大丈夫だ。我々ネイティブは、あなたたち日本人にとって、英語が外国語なのを理解している。だから英語そのもので失敗して笑うことがない。」と繰り返し話してくれました。私たちは、「だってあなたたちだって、もしも私が日本語を話して間違えたからって、私を馬鹿にしないだろう？」と続く Mott 先生の言葉に励まされながら、ディスカッションを続けました。

さらに、発信するには相手の発言を理解することも重要です。以前は相手の内容が分からないために沈黙してしまうことも多々ありましたが、ここでも Mott 先生の励ましで、相手の言いたいことを確認するための質問を率先して行うようになりました。

以上の事例のように、Mott 先生の講義中の穏やかでユーモアある発言や応対により、私たちは英語で発信することへの恐怖心が和らぎ、失敗した経験を自信に変え、成長することが出来ました。講義の後半では講義中の沈黙が格段に減り、全員が率先して発言する、相手の失敗をフォローしながら会話を続けるようになりました。

●川村先生のメッセージ：ダイバーシティ（多様性）の価値観

前述のとおり、子供（4歳・1歳）がおり、初回は寝かしつけが上手く出来ずに講義に遅れるという大失敗を犯しました。後日、謝罪のメールを送った私に、川村先生が「お母さんであるあなたが気に病むことではない。ダイバーシティ（多様性）とはお互いをそのまま認め、受け入れることだ。私たちはあなたを応援する。」といったメッセージを送って下さいました。また、「自分も Mott 先生も仕事に子供を連れて行ったことはよくあった。仮に子供が寝なかつたら一緒に参加したらよいのでは。」とも。

ダイバーシティ（多様性）という言葉はよく聞きますが、ダイバーシティの価値観に触れる機会が少なかつたため、この経験は私に大きく響きました。余談ですが、今回の応募の決め手は、講義開始時間が 20:30 と子供を寝かしつけ後に参加可能と判断したことでした。初回の講義でその目論みが外れ、周囲に迷惑をかけることとなりますが、一方でそんな私を受け入れてくれる場所であることを理解し、大きく安堵しました。これが多様性を持った人の価値観なのかと、ある種の衝撃に襲われました。

その結果、私は初回授業前に行った、自分や子供を半ば追い込むような寝かしつけは止めました。もちろん講義は1人で受講したほうが集中出来、得る成果も大きいです。そのため、子供がスムーズに寝られる準備は念入りに行い、実践しました。（4歳の息子については、同居する母にお願いしました。）それでもどうしてもスムーズに寝てくれない日はありました。（4歳の息子も祖母と一緒に寝るのを嫌がる日もありました。）そんな日は、頭を切り替えて子供と一緒に受講しました。画面越しに笑顔で息子や娘に手を振ってくれる Mott 先生やメンバーに、子供も安心した様子で私の膝に座って一緒に講義を受講したり、隣の席でお絵かきをしました。私は自分の発言以外はミュートにし、子供が危険な行為をしていないかだけ気を配りながら講義に集中しました。子供が眠くなれば抱っこしながら受講し、寝てしまえば 1,2 分中座させていただき、寝室に連れて行きました。

もちろん私の行為に不信感や不快感を持つ方もいらっしゃるかと思います。講義も育児も中途半端に見える方もいらっしゃるかもしれません。しかし、私は育児も仕事も抱えている今、本プログラムを受講出来たことに感謝します。自分なりに抱えているものを両立させながら、新たに挑戦することが出来ました。（嬉しいおまけですが、子供が英語に少し興味を持ってくれました。）

今回こうした自分を受け入れてくれた先生方に感謝しつつ、今後同じように悩む方を見つけたら、自分も相手をそのまま受け入れ、共に歩む方策を探したいと思います。

●気づき

OSGS Program を通じて、私は主に以下 3 点を学びました。

- ・失敗を恐れずに発信することが重要であること。
- ・相手の説明が分からない場合は、まず率先して質問し、相手の意図をくみ取ること。
- ・相手をそのまま受け入れ、ともに成長することが重要であること。

どれも頭では大切なことだと理解しておりましたが、本プログラムで実際に挑戦・失敗することを通じて、自分の血肉となって習得した気づきです。今後もこの気づきを忘れずに、成長を続けたいです。

4. 終わりに

本レポートのまとめとして、この場を借りて、関係者皆様にお礼を申し上げます。

まずは、レポートでは余り触れられませんでした、ペアのサマーに最大限の感謝を伝えたいです。彼女は常に真剣に課題に向き合い、私を助けてくれました。元々あまり洋楽を聞かない私に、多くの楽曲を紹介してくれた上、その背景にあるアメリカの社会事情を分かりやすく伝えてくれました。また普段の大学、クラブ活動、アルバイトの様子を沢山教えてくれ、よりアメリカ社会について興味を抱かせてくれました。一緒に課題に取り組んだこと、互いに好きな音楽を聴きあい、MVを見ながら感想を述べあったことは大切な思い出です。彼女は今年の秋に福井に留学します。リアルに会える日が待ち遠しいです。

また、国際課の磯崎さん、佐藤さん、小口さんには選考時より大変お世話になりました。特に国際課の方が裏方として講義も聴講頂き、講義終了後に次回に向けた改善点やエールを送って頂いたことが印象的です。講義での姿勢や内容を客観的に指摘いただくことで、自分たちの弱点に早期に気付くことができ、対応出来ました。余談ですが、国際課との関わりから埼玉県行政に関する関心が高まったことを付け加えます。親身に支援頂く姿を通じて、県庁職員の業務への真摯で誠実な姿に触れました。仕事への想い、仕事を通じての県民への想いを知り、一県民としても心を打たれましたし、同じ社会人として尊敬の念を覚えます。普段なかなか考える機会がありませんでしたが、今後は県政へ関心を持つとを考えます。

最後に一緒に本プログラムをやり遂げたメンバーへ。オンラインが中心だったものの、共に過ごした5か月間は私に多くの気づきや体験を与えてくれました。感謝の念は尽かせません。

私にとって OSGS Program を一言で表すならば、「人々のご縁」に尽きます。これで終わりではなく、これからも巡り合ったご縁と学んだことを大切に、何事も諦めずに挑戦し、自分の歩みを進めたいと思います。



最終講義の最後にメンバー全員で撮ったスクリーンショット

以上